

# 法人だより

# おおさか

No. 331

8月号

2022年(令和4年)  
8月1日発行

毎月1日発行 平成3年1月25日第3種郵便物認可

発行人 里井 武

編集人 菱田伊津美

購読料(送料込)年間3,000円 1部50円

(会員の購読料は会費に含む)

社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会・後援会  
〒583-0842 大阪府羽曳野市飛鳥11番

TEL 072-959-2324 FAX 072-959-2632



2022年度活動

ス タ ー ト

6月19日(日) 法人後援会定期総会を3年ぶりに対面で開催し、新年度の活動がスタートしました。引き続き、ご支援、ご協力宜しくお願ひ致します。

選出された幹事は次のとおりです。(敬称略) (一)内は選出団体です。

大竹浩司(公益社団法人大阪聴力障害者協会) 中岡正人(同右)

杉本好美(大阪手話通訳問題研究会) 田渕幸治(同右)

福岡ゆかり(大阪手話サークル連絡会) 星野和也(同右)

多田洋(大阪市聴言障害者協会)・大聴協後援会担当部

鈴木清(大阪市聴言障害者協会) 竹尾勝美(同右)

丘村彰敏(北摂地区聴力障害者協会) 佐々木久尚(京阪地区聴力障害者協会) 渡辺清(同右・大聴協後援会担当副部長) 田中始子(河内地區聴力障害者協会) 時岡滋樹(泉州地区聴力障害

者協会)

田中 恵(福祉保育労働組合・なかまの里班) 吉村 望(福祉保育労働組合・あすくの里班)

梅本祥子(福祉保育労働組合・あいらぶ工房班) 平沼恵太(泉州聴覚障害者セントーなんなん)

柿ヶ原久美(福祉保育労働組合・大聴協分館分会) 池田智津子(福祉保育労働組合・市身協分会)

田中英一(さとの会) 山本規行(あいらぶ家族会)

塩見浩一(府障協・大阪府立中央聴覚支援学校分会)

中村克巳・菱田伊津美・小椋隆史・本田洋武・田中啓多・熊野勉・山崎昌洋・田中啓多・熊野内野さとみ・野崎俊博

(以上個人幹事)

かなお定期総会で選出ができます。1回運営委員会の審議事項に提案し、次とのおり承認されましたことを報告いたします。

会計監査 早浪久恵(あいらぶ家族会) 伊藤芳子(大聴協)

力を合わせて頑張ります。

【サマースクールなかま企画の中止お知らせ】7月31日(日)に予定されています第33回サマースクールと家族のつどいですが、新型コロナウィルスの急拡大について協議を重ねた結果、「なかまのレクリエーション企画」は中止する判断をしました。「家族のつどい」につきましては感染対策を十分に行い実施する方向です。

# 障害者支援施設なかまの里

〒590-0441 大阪府泉南郡熊取町大字久保 2329  
TEL 072-453-7545 FAX 072-453-7532

## ／グループホーム「やすらぎ」／

9年に及ぶ施設建設運動の結果、1994年4月1日に開所。「施設の主人公はなかま（利用者）」を合言葉に「いきいきとした豊かな暮らしと社会参加」を目指しています。



季節の飾りつけは、コロナ渦の暗い雰囲気をなくそうと始めたことです。が、なまに定着し、楽しみの1つになっています。

飾りつけの場所が食堂だけでしたが、どんどん飾る場所を増やしていました。昨年度は参加しなかつたなかまも新たに3階のミーティングフロアで取り組みすることで取り組みに参加してくれることになりうれしいです。

また、外出も少人数で出かけられるようになり、花見のドライブや近隣のお寺など散策し、その後お寺参りを楽しまれました。

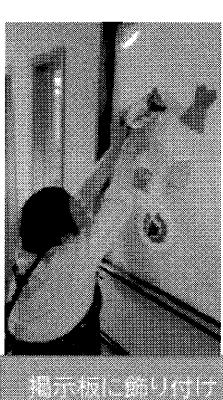
盲ろうのなかまはつづじが綺麗な時に外出し、つづじの花の形を何度も手で確認し、そして香りを楽しみ「わかった！わかった」と言つて頷いていました。

その後、お寺参りを楽しまれました。

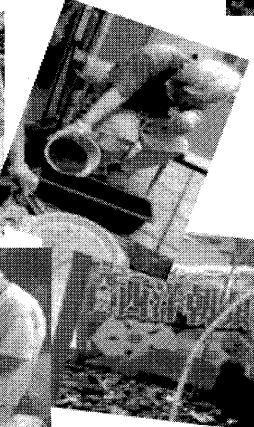
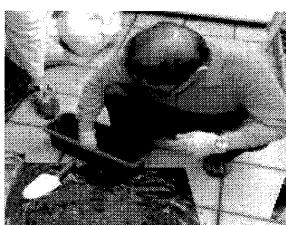
### くだもの班の取り組み

2022年度のくだもの班は37人でスタートしています。

昨年度から始めた、施設内の季節の飾りつけは、コロナ渦の暗い雰囲気をなくそうと始めたことです。が、なまに定着し、楽しみの1つになっています。

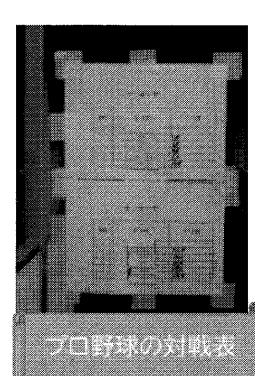


端午の節句飾り付け

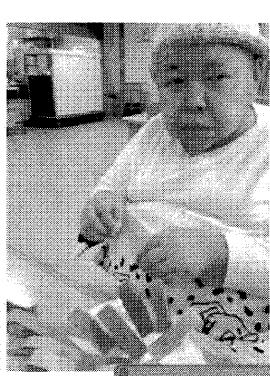


今年度新たな挑戦は、3階のテラスに朝顔を育てる事です。水やりなどは園芸が好きのなまが率先して行ってくれています。現在はすくすく育っているので、なまと一緒にどんな色の花が咲くのか？種の写真を指差し「これかなあ？」等と話しお楽しみにしています。

その他にもプロ野球の対戦表や甲子園のトーナメント表などをそれぞれ興味のあることを探すことによって、「ゲーム差示したことによつて、「ゲーム差が広がつた。」や「優勝はヤクルトかなあ？」などなま同士や職員のコミュニケーションの幅が広がりました。



プロ野球の対戦表



飾りづくり

朝顔を植える

今後もなまと一緒に笑顔で過ごしていくよう様々な情報や取り組みを提供していきたいです。

が広がりました。

過ごしていくよう様々な情報や取り組みを提供していきたいです。

くだもの班主担当 奥村 小百合

# = あすくの里 特別養護老人ホーム／ショートステイ／デイサービス／ケアプランセンター =

〒583-0842 大阪府羽曳野市飛鳥11番  
TEL 072-957-1764 FAX 072-957-1875

「あ：安心して　す：健やかに　く：暮らす」の願いを込め  
て2005年4月1日開所。入居者一人一人の願いや想いに寄  
り添った生活支援と介護を行っています。

## 特養3西 『大ブーム』

ると、私たちも嬉しいです。  
(特養部 香川 千佳)

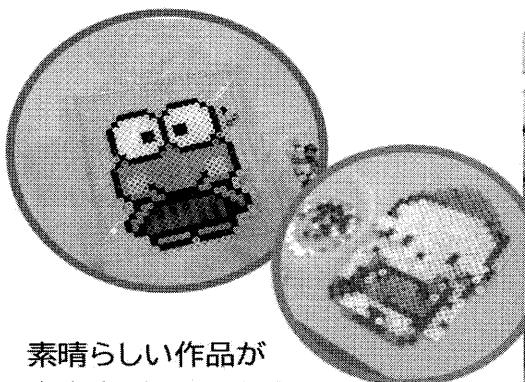
3西では今、アイロンビーズが空前の大ブームになっています。

カラフルなビーズを土台に並べて、最後にアイロンで加熱しビーズをくっつけます。かなり小さなビーズで細かい作業にも関わらず、集中して毎日取り組まれており、メキメキと腕が上達しています。

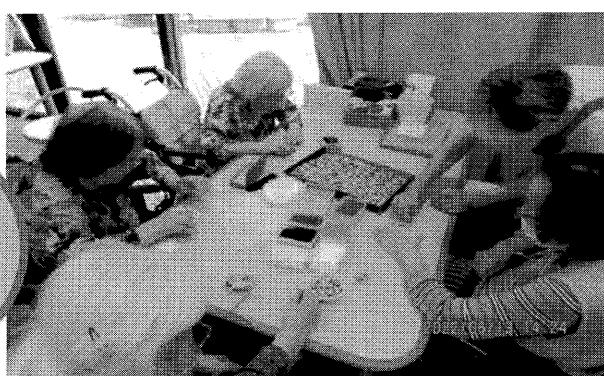
ひとつずつ丁寧に集まり和氣あいあいとした雰囲気の中、それぞれ思い思いの作品を作つておられ次々と新たな作品が誕生しています。

入居者さんは、「これは○○にあげる」「次は誰にあげるのを作ろうかな」と大切な人にプレゼントすることを目標とし、毎日のモチベーションになつておられるようです。

指先を使う作業は体と頭の運動にもなる為、これからも無理なく楽しく続けて下さ



素晴らしい作品が出来上りました！



2021年6月より、3ヶ月に1回『あすなす』というお便りを発信しています。

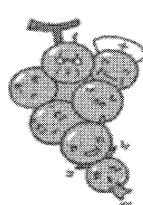
衣類調整・運動について・高齢者の体の変化・水分摂取の大切さなど、季節に応じた内容についています。イラスト(時には手書きの)を多めにし、一目見た時に「読みたい！」、「読んだ時に「おもしろい！」」と思つてもうえのように心がけています。

職員からは、「とても参考になつた」「一人ひとりに合

つた支援に繋げていきたい」と感想も寄せられています。入居者さんからの評判も良く、体操について発信したときは、イラストを見て実際に取り組んでくださっています。「楽しみにしてるよ」と仰つていただきと、とても嬉しくやりがいを感じます。

これからも楽しく発信し、皆さんのが健康保育に貢献できたら嬉しく思います。

(医務部 吉村 望)



『あすなす』のキャラクターです。

## 医務部『お便り発信』

# — あいらぶ工房 ろう重複障害者通所施設 —

〒 552-0023 大阪府大阪市港区港晴 1-7-4  
TEL 06-4395-7588 FAX 06-4395-7589

2007年4月1日、大阪市港区に開所。「ろう者のオアシスになってほしい!」という家族の言葉どおり、多くの人たちが集う場を目指しています。

## コロナ禍とピザ

新型コロナウイルス感染拡大は、グループホームで暮らすなかなかの日常にも影響を与えました。週末の帰省やヘルパーさんとの外出など、今まで当たり前だったことが出来なくなってしまった。今回はその頃の話をしたいと思います。

ある日の休日の昼食は外食予定でしたが、手作り行楽弁当と

宅配ピザをグループホームのピロティ（屋外）で食べていただきました。食事の進み具合を見ながらピザの準備です。世話人が切り分けて小皿でご提供「さあお召し上がりください」。しかし、なまはピザには手を付けて、世話人に向かって『ポン

プを押す十両手を擦り合わせる』手話をされました。弁当を食べる前にアルコールで手指消毒はしていましたが、手で直に食べるピザですから納得のご指摘でした。いつになれば元の生

活に：私はそんなことを考えていました。

あれから1年が過ぎました。

状況は少しだけ変わりました  
が、休日は相変わらずホーム内で過ごす日々が続いています。

天気の良い日になかまを誘つて日光浴を兼ねて近所を散歩する

時、思い出すのはピザを食べたあの日の出来事。今考えることは：感染予防対策を続けること

が皆の命を守ることになるのだ  
と。なまから教えられた港区

の初夏でした。

（世話人 神村寿郎）



## 実習生となかま

あいらぶ工房では毎年実習生を受け入れています。社会福祉士や介護福祉士など、福祉の仕事を目指す学生です。2020年度、コロナ対策のため見学やボランティア等外部の方の受け

入れを中止した中、いち早く受け再開をしたのは実習生でした。

た。当時はまだコロナがどうなるか見通しもつかない段階で、受け入れには迷いもありました

が、将来ともに福祉を担う人材を育てるため、聴覚障害やろう

重複障害について理解を深め関心を持つてもらうために、施設内だけでなく学校側とも感染対策等を細かく確認しながら受け入れを決断しました。

ある学生の実習最終日。実習を振り返り印象的だったことを尋ねると、「たくさんありますけど…、やっぱり1番はMさんに毎日手話を教えてもらったことです」と、持っていたノートを見せてきました。そこにはMさんが書いた単語がビッシリ！しかも、まだ何冊もあるというのです。毎朝Mさんが単語を書きながら手話表現を教えてくれ、学生は帰宅後にノートを見ながら復習、忘れた単語は翌

やりとりを毎日繰り返していました。

Mさんは、私たち職員とは手話でコミュニケーションをとるため、日常でノートに書くとい

う場面は殆どありません。あん

なにたくさんの文字を書いてい

るのはよくある光景ですが、普段はどちらかと言うと引っ込み思案のMさんです。そのMさん

が、毎日自ら教える単語を考えて、一生懸命教えている姿を思

い浮かべると、なんだかとつ

も嬉しくなり心がホクホクしました。職員には引き出せないMさんの一面を実習生が引き出してくれたのだな、と感じます。

今年度もこれから続々と実習生が来る予定です。実習生が、

あいらぶ工房でいろいろなことを学んでくれることにも期待していますが、なまがどんな新

たな一面を見させてくれるのかも楽しみでなりません。

（総括主任 曽我久美子）

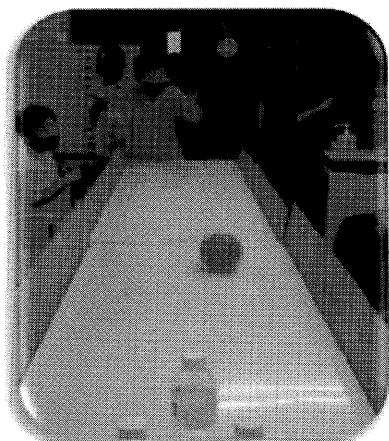
# ほくほく

北摂聴覚障害者センター

〒564-0002 大阪府吹田市岸部中3-13-4  
TEL:06-6387-2015 FAX:06-6387-2100

2015年4月に吹田市に開所。北摂の聴覚障害者の願いで実現した聴覚障害者専門の通所施設です。

愛称の「ほくほく」の通り暖かくて優しい気持ちになれる地域に開かれた施設を目指しています。



## 第2回 ほくほく室内(●)ボウリング大会

仲間が毎年楽しみにしている年間行事が「ボウリング大会」です。

企画の段階ではコロナも落ち着きそうな様子でした。今年こそ本物のボウリング場に出向こうかと相談していましたが、感染予防を考えて今年も室内でやることに泣く泣く決めました。

ペットボトル大・中・小を机

の上に一〇本並べて小さなボールを転ばして倒れた本数を競います。レーンは作業台

です。女性と80歳以上の男性のみ作業台の両脇に壁(バーパー)を作ります。このバーは段ボール製で副センター長の手作りです。開閉は折り畳み式でみんなで動かします。2チームに分かれるので2つのレーンを作ります。

ほくほくは狭いのでボウリング場作りは、前日から準備が始まります。仲間の退所後に靴箱や荷物を移動させ、作業台を折りたたんで撤収と大移動です。翌日、行事は午前中で終わり、昼食後午後

からは通常作業です。昼食には作業台が必要です。間に合わずにやらなければなりません。職員、仲間一丸となって作業場兼食堂を復帰させます。

大変な作業の連続ですが、

当日は本物のボウリング場に負けないくらいの大盛況でした。(にこにこ会副会長(ほくほく仲間最年少)の開会挨拶と始球式ではじまり参加者一人名、全員一回につき2球ずつ計5回で一〇投球しました。

仲間は投球前に手指アルコール消毒、ボールは一球ごとに職員が消毒、換気のため窓は全開放し、マスクは二枚重ねづけるなど感染予防対策をおこないました。コロナウイルスの心配などなく純粋に行事を楽しめる時間を望みます。



会にここに会から、あいらぶ  
工房の指文字クッキー(ほく

ストライクはありませんでした  
が、スペアは何回かありました。

参加賞も大好評で、自治会にここに会から、あいらぶ

ます。  
(支援員 山下 節子)

なんなん

〒597-0033 大阪府貝塚市半田1-20-9  
TEL:072-428-6800 FAX:072-428-6801

重複聴覚障害者や地域の作業所でコミュニケーションが取れず寂しい思いをしてきた方、自宅に閉じこもりがちな高齢聴覚障害者が「集い」「語り」「一緒に」作業や活動を通して豊かな暮らしを築いていくための場所です。



く説明をしました。「避難する時は、口をハンカチなどでふさぐ」「体勢を低くして避難する」等の説明をながま達は真剣な顔で聞



の場で消防訓練を行いました。前回の避難訓練で体験が出来なかつたなかまを優先に水消火器を使って消防器の使

テーマは『もし、火災が発生した場合。』です。朝から食堂に集まり、トイレにいったり、水分補給を取りながらいつもの違う取り組みに「何が始まるのかな?」とそわそわ、わくわくしながら待っていました。10時から始まり、パワーポイントを使いながら「もし、なんなんで火災が発生した場合」をいう職員が手話で

「モ、職員からの問い合わせや質問」「ハイ」と手をあげ、返答してしまった。一通りの説明が終わると、なかも達は一日作業場に戻り、いつも通りの作業を始めてもらいました。警報が鳴った時の訓練を行しました。警報はものうんながま達は聞こえないで、天井のフランジコハンプを見て、駐車場へ避難しました。避難してから、全員が揃つて居るかを確認し、無事全員が揃つていてホッ。

い方の練習をしました。「やりたい」「やりたい」と順番並びに列が出来、「最後の人、水残ってるかなあ?」と心配してたら水が切れてしまい、練習が出来なかつ

「うね」「うね」と冗談めで笑顔でしゃべられました。今回の講習は、職員が手話で分かりやすく説明し、なかも達も真剣に見入つてたのでとても良かったと思いました。これからも分かりやすい手話をいろいろなことをなかまに知らせていきたいと思ふます。



(援助部 因輸曲子)

# ほうじん

社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会

『願い・創造・権利・共に』を理念に 脳炎障がい者の豊かな暮らしと権利を守ります ~手話で築く豊かな暮らし~

拡大・増加の出生前検診の命が選別される、医療技術の進歩により、血液検査や超音波検査で胎児の病気や障害が分かり、「陽性」を理由に人工妊娠中絶をおこなうものです。つまり、「産むか、産まないか」という大きな葛藤と決断を要しますが、検査で陽性となつた妊婦の9割が「中絶」を選ぶというのが実態です。国は、運用の充実を図るため、「年齢制限の緩和や受診医療機関の拡大そして情報提供のため母子手帳を受取る窓口で学会が作成したパンフを配布」しています。これに對し、茨城県のダウントン症の妹を持つ学生が出生前検診を受けた夫婦を取り材し、「生まれてこなかつたか

旧優生保護法下における  
「強制不妊手術」をめぐる裁  
判の前後、「優生思想」の広  
まりを感じさせる「障害者  
や社会的弱者に対する差別  
や偏見を助長につながる」  
事件や政府の施策などが發  
生、実施されていきます。(前  
号より続く)

# 『命だけはみな平等』 (福) 大阪聴覚障害者

(福) 大阪聴覚障害者福祉会

## の意味を考える（3）

(4) 災害弱者に対する国・行政の配慮・支援  
川沿いや土砂災害の危険性の高い場所に施設が建てられ、濁流や土砂が押し寄せさせてくる恐怖に耐え、自力で避難することもできず尊い命が失われる災害（いわゆる人災）が増えています。東日本大震災以降、「津波防災地域づくり法」が制定され、津波災害特別警戒区域には「福祉施設などの開設を制限する」となっていますが、新設の施設の8割がこの警戒区域に建てられ、行政は法人・施設に「避難計画」の提出を求めるだけです。今後30年間に確実に発生す

も知れない妹』と題した卒論を書いたとのドキュメンタリーが放映されていました。障害を持つ人の命を国が軽んじ排除する。『生命倫理』について論議されたのか。淘汰されるかも知れないダウン症等の当事者の話を聞いたのか。病隔離政策や旧優生保護法のもとで強制不妊手術と同様、『国がつくりだす障害者差別』だと言わざるを得ません。

(6) 現在の優生思想への対抗軸として、私は見えて福祉に関わる職員や関係したが、当事者や家族そして3回にわたって紹介しました。

者として、これらの優生思想と実態、政府や国民の障害者観や命に対する思いなどを見つかり見つめいいな必要がありますが、『優生思想』の善悪を論ずるよりも、「命が大切にされ、どんな障害や環境であっても必要な公的サービスが受けられる国や制度づくりをめざす」ことが大切だと感じています。

特にロシアによるウクライナ侵略やコロナ下で、改憲の気運が政府の中に高まっている今だからこそ、「幸福追求権」（13条）、「生存権」（25条）、「財産権」（29条）をしつかり保障させることの運動が必要ではないでしょうか。

7月号の記事で裁判中の生野聴覚支援学校生徒さんのお名前を井田安優香さんと誤記しました。正しくは井出安優香さんです。編集部の確認もれで大変申し訳ありませんでした。

# 私もバンザイ！！

7月4日(月)住吉区手話サークル杉の子にて、泉州聴覚障害者センター「なんなん」の三田さんに講演をしていただきました。

施設建設までの長く苦しい道のりに一丸となって取り組んでいたことに感激致しました。また、国庫補助金の交付が決定した時の話では私もバンザイしてしまいました。＼(^o^)／

また開所後もいろいろあり本当に大変だった事がうかがえました。中でも良いなあと思ったことが、常になかまの意見を取り入れ（トイレの緊急ライトが見づらかったのを見やすくするなど）施設の改善をはかっているところです。

これからも、なかまの作った美味しいケーキやクッキーせんべいなども楽しみにしています。

当日はケーキやお菓子のほか、可愛くて便利なチャック付きポーチも販売していただき大盛況でした。参加者30名大満足の1時間半！なんなん施設見学の事前学習もでき、とても有意義な時を過ごせました。

本当にありがとうございました。

手話廿二クル杉の子 菊田清子



杉の子の皆さんと三田センター長で記念撮影！

回講演を拝聴させて頂いて、私もろ  
者の方と沢山お話をしたい、その為  
は今受講中の手話奉仕員養成講座を頑  
張りて修了したい、と思いを新たにして  
ます。

人は意思疎通の出来ない環境に置かれると、例えようのない孤独感に苛まれてしまいますが。ですから、言葉（手話）を使い対話が出来る相手がいるということは、生きていいく上で本当に大切なことだと思います。そしてそれが出来る場所を作るためには、法人後援会の皆様が今日まで大変なご苦労をされてきたことを知りました。スクリーンいっぱいに映し出された施設利用者様のあの満面の笑顔が、その苦労の上にあるということも。

私は十年前から耳が聴こえ難くなり、今年に入つてからは補聴器を使用しなければならない程になりました。耳が聴こえ難くなつてからは、聴こえていた頃には考えもしなかつた辛い経験を沢山してしまつた。中でも一番辛かつたのは、やはり人との会話が上手く出来なくなつて

# 講演を抨聴して 生きていいく上で 大切な場所



手話サークル青柿は京阪プロックの枚方市で活動するサークルです。一九七四年の設立で、二年後には設立五〇周年を迎えます。

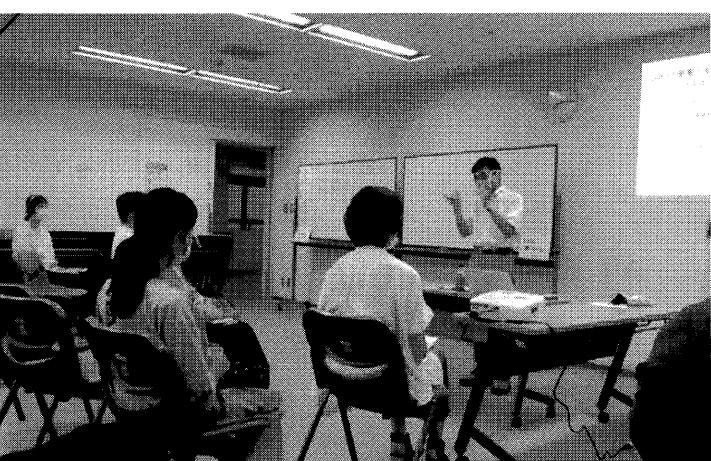
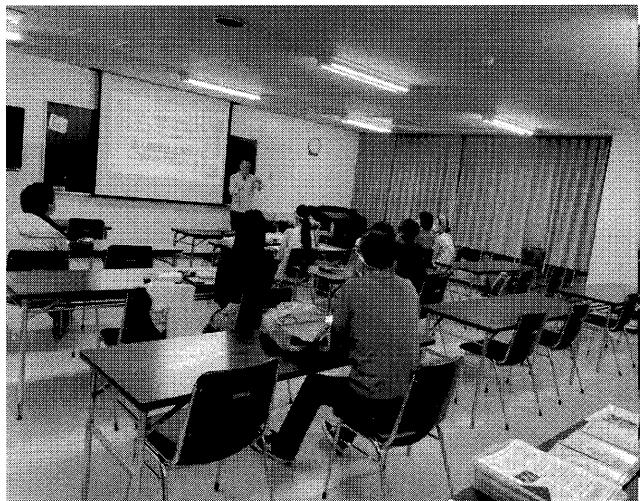
現在は二五名の正会員（聞こえる人）と一五名の協力会員（聞こえない人）が毎週水曜日の一八時三〇分から二一時まで枚方市総合福祉センターで例会を開催して活動しています。

「あすくの里」や「あいらぶ工房」の施設建設活動時に関わった会員もいつしか代わりが進み、日頃の例会活動では法人や法人後援会の紹介が十分でなく、気が付けば会員のほとんどが法人や法人後援会を遠い存在にしか思わない状態になつていました。

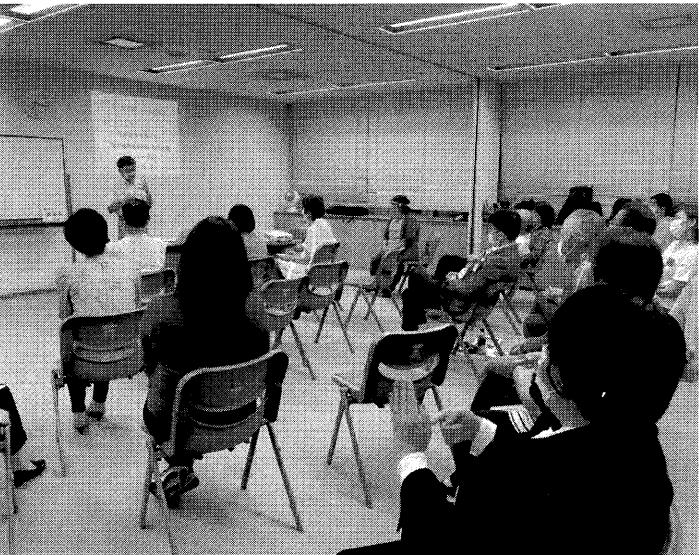
そんな中、法人後援会から団体訪問の呼び掛けを受け、六月八日（水）中村事務局長にご足労いたただきました。最も分かるよう、懇切丁寧にご説明いただきました。

大坂府に六つ目となる施設の建設を目指す京阪ノロックのサークルとして、既存の五施設を身近に感じ、我が事として積極支援出来る支援集団になりたいと心を新たにしました。

いつもは声無しを実践しているサークルですが、この日ばかりは中村事務局長に手話を加えて小声で発声をお願いして最前列に座った読み取り通訳が必要な会員にも伝わるようになります。



(上) いいもりサークル  
(右上下) 青柿サークル  
皆さん熱心に聞いてくださいました！



## ◎2022年度法人後援会の活動方針、スローガンの再かくにんです◎

### 活動方針

障害者福祉向上のための理解者である会員拡大に取り組みます。後援会組織の強化力に努めながら、後援会組織の強化力を努めます。

### スローガン

一、ウイズコロナ（コロナとの共存）を念頭に、聴覚障害者の福祉の発展のために、今すべき取り組みを模索し安心安全な活動を開催しよう！

一、団体訪問や様々な企画で後援会の必要性を訴え、個人会員1,500人を突破しようと！

一、法人及び三団体と協力して、「すべてのブロックに聴覚障害者センター設立」に向けて積極的に取り組もう！

大阪府内5ブロックにろうあ高齢者が集える聴覚障害者セントー開所に向けて積極的に取り組みます。

法人の事業計画を支えながら、「なまの里」「あすくの里」「あいらぶ工房」「北摂泉州聴覚障害者センターなん」を積極的に支援します。

一、社会的に孤立しているろう重複障害者や、ろうあ高齢者に福祉の情報を提供し、ろうあ者のなまの輪を広げていこう！

一、（社福）大阪聴覚障害者福祉協会の運営・行事・事業活動に協力しよう！

一、「自助、共助、互助の福祉でなく、公的責任による福祉で国に訴えよう！」

法動般5  
確法動般5  
議確法動般5  
事・保人へ  
協するた  
業を展開し  
ます。

毎月「法人だよりおおさか」を  
深め情報発信に努めます。

「法人だよりおおさか」を  
毎月発行し、会員相互の交流

一、「障害者総合支援法」「障害者差別解消法」に聴覚障害者、ろう重複障害者、ろうあ高齢者の立場を主体に提言します。

一、介護保険制度改悪に対し

て、ろうあ高齢者の立場を主に提言しよう！

一、法人及び三団体と協力して、大阪府内すべての市町村で手話言語条例が制定されるよう訴えよう！

一、手話通訳派遣の利用者負担及び施設利用者の個人負担を阻止しよう！

一、障害者福祉・高齢者介護制度について学び、課題等を訴え、協力を呼びかけよう！



### ☆引き続き会員入会手続きお願い致します☆

◎年会費（4月～翌年3月）

- ①個人会員3000円(1口) ②団体会員3000円以上
- ③特別会員☆個人2万円(1口) ☆団体5万円(1口)

◎入会は法人事務所、大阪ろうあ会館、各施設で受付しています。

◎郵便振替の振替用紙にご氏名・ご住所をご記入下さい。

(番号) 00910-9-279962

(名義) 社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会・後援会

6つの活動方針、11個のスローガンを任期2年間で、一つも胸に描きながら取り組みながらま頭に考えます。

## 法人後援会は会員一人ひとりに支えられています

2022年度会員 2022/7/13現在			
ブロック	個人(ろう)	個人(健聴)	団体
大阪市	90	146	36
北摂	41	81	8
京阪	41	52	15
河内	35	125	22
泉州	57	107	26
その他	9	33	0
小計	273	544	107
合計	817		924

新型コロナウイルス感染がまた爆発的に広がっています。皆さん十分に感染防止に努めて下さい。会員数は左の通りで817名。ようやく800名クリアしました。組織部メンバーも新しく決まり新たな気持ちで頑張っていきます。入会の呼びかけ引き続きご協力よろしくお願いします。

(組織部長・多田洋)

### ◎2022年度会員手続きをして下さった方・団体◎

#### ○個人会員

阿佐輝美  
朝妻久雄  
井川春美  
石澤尚美  
大城盛光  
大竹浩司  
岡田香子  
岡部美香  
岡本昇治  
奥田笑子  
奥村美絵子  
小椋高子  
小野英子  
梶木みえ子  
片山恵里  
河内美由紀  
北尾亜由子  
倉内勝則  
藏本圭子  
黒川博子  
黒澤陽子  
湖亀弘子  
小寺敦子  
小林光正  
是澤愛子  
小枝 豊  
笹川和廣  
笹川朋代  
佐藤てるみ  
塩見幸子  
塩見浩一  
地頭江晶子  
鈴江惠子

鈴木恭子  
高瀬富美子  
竹内恵利美  
竹中春実  
竹本圭吾  
田中和美  
田中啓多  
田中道子  
近友順子  
葛籠みどり  
鶴羽清昭  
中谷恵理子  
中野美沙  
中本鈴代  
中本美里  
西尾直子  
西野敦子  
新田善久  
沼 順子  
萩谷佳恵  
畠 万里子  
平居敏夫  
藤原恭子  
星沢 篤  
本田真由美  
丸山智美  
簗作則子  
藪 勝治  
山内くに子  
山本規行  
吉岡省三  
米山祐美

○特別個人  
西田美和

#### ○団体会員

手話サークルあゆみ  
大阪手話サークル連絡会  
柏原市聴力障害者協会  
手話サークルさくら貝  
福保労市身協分会大阪市身体障害者団体協議会  
泉州地区聴力障害者協会  
天王寺区聴言障害者協会  
手話サークルともしび  
東大阪手話サークルにじ  
手話サークルのばら夜の部  
手話サークルのばら昼の部  
城東区手話サークルひだまり  
守口市ろうあ部会

#### ○特別団体

あいらぶ家族会  
手話サークルはばたき

いつも  
ござ  
ります！

### 運営委員会での「経験！」

2022年6月28日(火)…なんとこの日、私は初めての読み取り通訳を経験しました!!! 手話の勉強を始めてから、通訳の経験はありません。まさかこんなに多くの人が集まる場所で体験するとは。緊張と不安だらけでしたが周りの方にフォローしてもらい、何とか頑張り切りました。完璧には程遠いですが、自分で読み取れた部分もあり嬉しかったです。終了後はねぎらいの言葉をいただき有難うございました。

(四條畷市・木村あづさ)

(運営委員会では参加の運営委員さんに持ち回りで通訳をお願いしています)

